変わりゆくビジネスモデルへの対応

KBIC 基盤技術セミナー

川崎市と公益財団法人川崎市産業振興財団

パネリスト

タイジ社長　堀江　裕明氏

ＪＫＢ社長　平井　圭一郎氏

冲セキ社長　緑間　浩市氏

青山プラスチック塗装社長　青山　宗嗣氏

●コーディネーター●
西武文理大学サービス経営学部長　柏木　孝之氏

2008年のリーマンショックが引き金となった世界同時不況からの復興に日本経済があえいでいる。日本の製造業は卓越した技術によって高品質の中間財を供給できる点を強みに成長してきた。しかし、昨今は中国・台湾・韓国などアジア諸国に技術で先行しながらも、実情は生産と流通で水を開けられる状況が続いている。ここで分かることは、高品質と低価格という一見相反するニーズに同時にこたえられるものこそが世界市場で求められているということではないか。日本の中小製造業は何をつくり、どこに販路を求めるべきか、グローバル化が迫られる中、それぞれの立場で明日のものづくりを議論した。

パネルディスカッション

商品・サービス差別化　堀江氏

堀江氏

柏木　パネリストの皆さんが取り組んでいる事業を特徴を含めてお聞かせ下さい。

堀江　1964年からおしぼりを温める機械、一升瓶を逆さにしてお酒を熱燗にする機械をメーンにやってきました。その後、市場の変化に応じてショーケース、ホットケース、クールプレートなど飲食店向けの業務用に特化しています。それも煮る、炊く、焼くではなく、保温、保冷などサービス機器に、さらに小型商品に特化するというニッチの中のニッチを行っています。かなり事業内容を絞った商品、他社がやらない商品を製造販売する業界でも特色をもった企業です。キーワードは「ホスピタリティー」で、これを具現化することをコンセプトに商品開発をしています。

柏木　ホスピタリティーという点で、競争状態の中で生き残ったオンリーワン技術の特徴は。

堀江　当社はおしぼり蒸し器でスタートしたのですが、最近おしぼりが出てこない。紙製に替わり、高級な飲食店に行かないと布製の熱々おしぼりが出てきません。確かに市場変化もありますが、おしぼりを使用する場所は飲食店のほか、美容室、エステサロン、老健施設、病院、ゴルフ場など人が集まる場所です。そこで差別化を図るため、いろいろな業態に対応できるように大中小3種類に広げました。要するにお客さんに選択肢を与える、それから白だけの色を8色に増やしました。差別化はいろいろありますが、商品的な差別化、サービスの差別化を徹底的に図ったことが残れた要因だと思います。

生産・技術管理ＩＴ化　平井氏

平井氏

平井　当社は金属材料のプレス加工が主です。基本的には金型の設計製作からプレス加工までを社内で一貫してやっています。難しい形状や「こんなものがプレスでできるのか」というプレス加工が特徴で、あとは8、9マイクロメートル、1000分の8～9ミリメートルといったレベルの微細加工を手がけています。もう一つは生産管理、技術管理をＩＴ化に取り組んでおり、「工場の見える化」を推進しているのも特徴です。当社のものづくりは三つに分類できます。第1はものづくり技術の開発。プレスできそうにないものをプレス化したり、微細加工、超高精度を突き詰めるというものです。第2は構成と設備です。昨年、日本第1号機となるスイス製機械を導入しました。アジアで実績がなく世界でも20～30台というレベルの機械を日本で先駆けて導入するなど高性能設備にこだわりを持っています。第3はソフトウエア、品質管理と生産管理です。生産管理は生産性向上支援システムを導入していますが、自社で設計して特許を取得したシステムです。この三つのものづくり、ハード、ソフトに均等に力を入れていけば高いレベルのものづくりができると思います。差別化は高精度製品の追求として金属プレスを突き詰めていくことと、生産性向上、品質向上、高精度製品の開発、顧客対応でもすべてＩＴでカバーできると考えます。

緑間　当社は墓石、お墓の卸売業、輸入販売をやっていますが、直接消費者に販売しているのではなく、小売店に卸す商売を行っています。象徴的なのが「シルエット」という商品です。〝影をつくる墓石〟という新しいコンセプトの商品で、「かわさき産業デザインコンペ2008」で優秀賞を受賞しました。墓石をアーチで囲んで影をつくり、アーチ天井部の孔から差し込む太陽光を利用して文字や絵をくっきりと浮かび上がらせる仕組みです。新連携（異分野連携新事業分野開拓）事業の認定も受けました。まだ収益に貢献はしておらず、広告の一環と新規開拓のツールという位置付けです。当社は91年に創設しましたが、当初は土木材を扱う中国からの輸入商社としてスタートしました。03年に墓石業に転換し、3年かけて土木建築から完全脱却、それ以降は墓石だけで経営に当たり、ニッチな話ですが、昨年度は墓石の量と売り上げで、卸という意味では神奈川県でトップになりました。その理由の一つが製品力で、中国の工場を競争させて商品を買う他社と違い、1社とだけ徹底して製品管理を行っており、これが製品力の高さにつながると認識しています。もう一つはサービスの差別化で、エリア戦略を取り、原則、神奈川県から出て行きません。最後は03年に開発した段ボール梱包です。これは当社だけがやっている梱包システムで、中国からの輸入商品の場合、同業他社は木枠梱包で輸入していますが、段ボール梱包はコストを大幅削減でき、大きな営業力になります。また、当社の最大の特徴は社員に対して営業力を徹底的に鍛えています。社員は入社時点から営業で、フォークリフトや玉掛けなど石の配送に必要な資格を全男性社員に取得させています。

青山　当社は何をやっているか一目瞭然の社名で、「2次加色」という製品を高付加価値化する事業をメーンに行っています。製品をゼロから生むのではなく、製品に加色する、印刷して文字を入れる、模様を付ける、ロット番号を入れるといった製品自体の高付加価値化に特化しています。しかし、「製品を何個かほしい」という顧客ニーズに対しては信頼を得ることが難しい。顧客のデザイナーに対する提案とか、他の加工方法やいろいろなパターンを提案していく中でビジネスにつながっています。社名はプラスチックに塗装するという形をとっています。ただそれだけでは仕事は取れないので、レーザー機や印刷もやっていますが、もともと持っていない技術です。周囲には成形や金型、アセンブリーなど一般的な流れがありますが、若いころ営業に行くとこうした技術を一生懸命教えてくれ、顧客のデザイナーに「こういう技術だったら、この会社を紹介します」と伝え、ネットワークを構築してきました。そこで会社に設備を入れ、人の交流を図りながら自社の技術力を高めていきました。昨年9月にライセンスを取得し、ベトナムに塗装工場を立ち上げました。当社がやってきた市場パターンはすき間産業で、設備が整っている大手が負担になる仕事を請け負ってきたのですが、新興国でも今後、出てくるだろうと打って出たわけです。ここには日系企業が進出していますが、まずは日系企業の負担となっている製品を請け、その後の韓国、台湾企業も視野に入れながら動いています。

KBIC基盤技術セミナー会場

ごあいさつ

公益財団法人 川崎市産業振興財団理事長　曽禰　純一郎氏

先端技術研究、川崎に集積　産学公民でイノベーション

川崎は産業都市として100年の歴史を誇っていますが、この間、わが国の発展を支えてきました。関東大震災で壊滅的な被害を受け、戦争の空襲で被害を受けましたが、ここから立ち直り、わが国の高度経済成長を支えてきた都市です。

川崎は過去の歴史の中で常に産業界の方々が努力してイノベーションの先端を走ってきました。臨海部の重化学工業が高品質の製品を生み出す素材型の産業地帯に、エネルギー基地も世界最先端の環境技術を備えたコンビナートに、内陸部のエレクトロニクス生産拠点も研究開発拠点に変貌しました。

とくに川崎の特徴は研究開発機能が集積しており、200を超える研究開発施設が立地している点です。ここで研究開発に携わる人の比率は東京23区を含めた大都市と比較しても断然トップです。

川崎には四つのインキュベーションセンターがあります。かわさき新産業創造センター（KBIC）、かながわサイエンスパーク（KSP）、テクノハブイノベーション川崎（THINK）に加え、このほど開設する明治大学地域産学連携研究センターで、これだけ集積しているエリアは他にないと思います。

ここ新川崎・創造のもり地区は川崎市で最初に整備されたエリアで、第1期工事が慶応義塾大学のK²（ケイスクエア）タウンキャンパスで、第2期がKBIC、第3期がナノテクノロジー関係の産学公民の共同研究施設です。慶応、早稲田、東京工業、東京の4大学がコンソーシアムを形成、最先端機器を導入しています。ナノテクはこれからの健康福祉、環境エネルギー、情報通信など幅広い産業でイノベーションを引き起こす次世代の基礎技術といえ、共同研究に取り組みます。

川崎は多くの先端技術を研究する施設が集積するエリアで、ここから元気で頑張っている企業の皆さんと一緒に明日の日本のものづくりをどう考えていくかを議論していきたいと思います。

かわさき新産業創造センター　KBIC Kawasaki Business Incubation Center

新しい産業の創造拠点として

インキュベーション
創業、新事業・新分野への進出支援

■経験豊かなインキュベーションマネージャー、アドバイザーが支援します

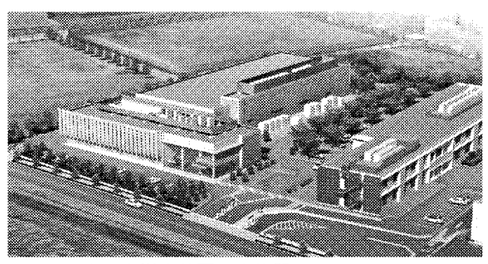
●相談・あっせん（事業計画、経営法務、会計、資金調達、IPOなど）
●企業交流（館内、地域）
●ビジネス・マッチング（個別、商談会、展示会）
●金融機関、ベンチャーキャピタルなどとの仲立ち

基盤技術の振興・高度化
基盤技術の継承、人材育成の支援

■基盤技術に精通した技術コーディネーター、アドバイザーが支援します

【入居企業募集】詳細はホームページにて
http://www.kawasaki-net.ne.jp/kbic/

公益財団法人 川崎市産業振興財団
かわさき新産業創造センター（KBIC）
川崎市幸区新川崎7-7　新川崎創造のもり地区
電話 044-587-1591　E-mail：kbic@kawasaki-net.ne.jp


ナノ・マイクロ産学官共同研究施設
■大型クリーンルームと最先端機器を備え、ものづくり技術の高度化を支援します（有料）

かわさき起業家オーディション
ビジネスプラン募集中!!

【平成24年度開催スケジュール】

	第77回	第78回	第79回	第80回	第81回	第82回
応募締切日	4/5(木)	5/31(木)	7/31(火)	10/4(木)	12/4(火)	1/22(火)
最終選考会	6/8(金)	7/27(金)	10/5(金)	12/7(金)	2/8(金)	3/15(金)

■ 中小企業のみなさまの経営支援
経営や技術などに関する相談からさまざまな経営課題の解決にむけて、専門家から適切な診断や助言を行います。
● 窓口相談　● ワンデイコンサルティング　● 専門家派遣

■ 大学・企業パートナー探しの窓口～産学・産産マッチング
大学と連携し産学交流を通じて中小企業の新製品開発、新事業展開を推進しています。

IIP KAWASAKI　公益財団法人 川崎市産業振興財団
〒212-0013　川崎市幸区堀川町66番地20　TEL.044-548-4111　FAX.044-548-4110
E-Mail：info@kawasaki-net.ne.jp　http://www.kawasaki-net.ne.jp/